

臨床研修センターだより



Vol.31 2016.9.30

～救急部での研修が終わりました！～

当院の研修プログラムは、1年次に救急部を3～4ヶ月ローテートすることが特徴の一つです。4月のオリエンテーション終了後に救急部へ配属され、7・8月末に終わりを迎えた5人の先生方。たくさんの症例を経験し、忙しい日々でありながら充実した研修を受けられた事と思います。そんな先生方に春からの数ヶ月を振り返って頂きました。



見逃さない事が大事だと思っていた。現実には検査や機械にも絶対は無く、見逃しゼロは不可能だ。大切な事は患者に起こりうる最悪の事態を理解してもらい、何が起きたら再受診するべきかを説明する事。医者になって数ヶ月でER 上級医からこの説明する技術を学べた事が救急実習で最も収穫だった。

(林 克磨)

何もわからない状態からのスタートでしたが、2年目の先生や指導医の先生が丁寧に教えて下さったおかげで、救急の初期対応を学ぶことが出来ました。体力的につらいこともありましたが、同期のおかげで乗り切る事が出来ました。また当直はこれから1年以上ありますので、救急ローテの経験を生かし、少しずつ学んでいきたいです。

(横出 晃能)

キャリアをERでスタートし、自分の土台が救急を軸としていることを実感します。勉強不足でERの先生方に頼るばかりでしたが、思えば痛い目にあった症例は、バイタルや問診をおろそかにした場合でした。コンサルト時はプレゼンが的を射ず、各診療科の先生方にも迷惑をおかけしました。これからもビシビシ指導のほどお願いします！

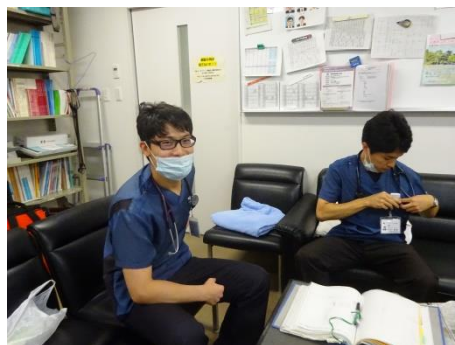
(山田 翔)

救急ローテの最初の頃は、問診するだけで精一杯でした。次第に仕事に慣れてきて、問診しながら鑑別疾患や対応について考えられるようになり、少しずつ医者として成長しているなど感じるようになりました。救急で学んだ事をこれからの研修に生かしていきたいです。

(梶浦 晋司)

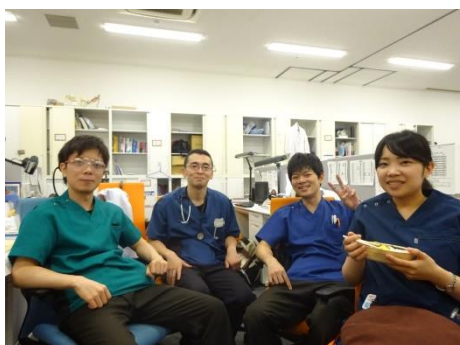
初めは医学的知識が乏しいだけでなく、オーダーの仕方や物品の場所など全くわからず全く仕事を熟せなかったため、無力感から何度も辞めたくなりましたがなんとか4か月半やり遂げる事が出来ました。研修前と比べてかなり成長出来ました。ご指導くださった皆様ありがとうございました。

(米ヶ田 真之介)



～初期研修医室、引っ越しました～

北館・南館の増築に伴い、院内のいたる所で引っ越しが行われています。初期研修医室もその中の一つで、8月20日～8月21日に引っ越しました。前の初期研修医室より少しだけ広くなり、ソファスペースもゆとりをもった空間となりました。新たに席替えも行われたそうです。引っ越しの際に聞いたのですが、初期研修医1年次、2年次が交互になるように席順が組まれています。以前からの伝統だそうで、とっても良い取り組みだと思いました。1年次、2年次の壁を越え、互いに高め合い良い影響を与えています。時には愚痴や弱音をもらしながら励まし合い……。初期研修医だけの医局がない病院も多いそうですが、初期研修医室の存在が当院の魅力の一つです。良き仲間であり、良きライバルである初期研修医の先生方の憩いの場になっています。



～衛生的な手洗い実習～

感染管理室主催の衛生的な手洗い実習の受講は、初期研修医研修修了認定の要件の一つです。8月下旬～9月上旬、初期研修医全員が受講し、「手指衛生」について改めて学びました。

- ①アルコール手指消毒・流水と石けんによる手洗いの手技
- ②グリッターパグを用いた洗い残しの確認
- ③「手指衛生が必要な5つの場面」など感染対策の知識の確認

